



佐世保市立黒髪小学校

所在地 佐世保市黒髪町52-1
校長 木村 純一
児童数 465名
学級数 18学級



【教育目標】

将来かなえたい夢や希望を語り、その実現のために意欲的に学んだり、努力したり
(大志) (自己実現)
できる、優しさとたくましさを備えた黒髪っ子の育成をめざす。
(自立・自律) (教育)

ひと

ふるさと

社会

体験活動により、人とつながり、触れ合う。	地域の自然や施設、歴史や文化などについて感心を持つ。	福祉・平和など、社会事象について体験的に学ぶ。
<ul style="list-style-type: none">・栽培活動・体験活動・家族や地域とのつながり・人への関心・相手の思いや願い・コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none">・地域の自然・地域の施設・地域の歴史、文化・ふるさとへの愛着	<ul style="list-style-type: none">・高齢者との交流・障がいの擬似体験・自分にできる社会貢献・戦争の悲惨さ・平和の大切さ

(1) 各学年の具体的な取組内容

【第1・2学年】「ぐんぐんのびろ」「老人クラブとの交流」

【ねらい】

- ・野菜を育てることで、命を大切にする心を育てる。
- ・地域のお年寄りに昔遊びを教えていただくことで伝統的な遊びに親しむとともに、地域の方との交流を深める。

【活動の概要】

- ・畑が広いので、芋さしや芋ほりをのびのびと行うことができた。草取りや水やりにこつこつと取り組み、たくさんのさつまいもを収穫できた。
- ・昔遊びは、保護者の協力の下、ふかし芋を老人会の方々と味わうことができた。

【成果と課題】

- ・自分たちで世話をした作物を食べることで収穫の喜びを感じ、食べ物への感謝の気持ちをもつことができた。畑の整備や芋の調理など、多くの人々に支えられていることに気づくことができた。
- ・昔遊びを通して、地域のお年寄りとの交流を深めることができた。1年生のお世話をしながら活動することで、中学年に向けての心構えをもつことができた。



【第3学年】「地域を知ろう～黒髪のじまん・九十九島のひみつ～」 「感謝の気持ちを表そう」

【ねらい】

- ・黒髪町付近の地域のじまんや九十九島の自然や生き物について調べる。
- ・自分の成長を確かめたり、感謝の気持ちを伝えたりする。(パンジーを育てる活動も含む)

【活動の概要】

- ・黒髪地区には、どんなじまんがあるのか、実際に黒髪の町を歩いたり、地域の人をゲストティーチャーとして招いて話を聞いたりして、自分をもっと調べたいと思ったことを課題に設定し調べる活動を展開した。
- ・九十九島の自然のすばらしさや多様な生き物に触れることで、佐世保市に一層愛着がわいた。
- ・お世話になったたくさんの方々に感謝の気持ちを伝えるために、ビオラやパンジーの栽培を行った。

【成果と課題】

- ・自分たちが生活する地域を見つめ直し、新たな発見ができた。
- ・調べたことをポスターセッションで発表したり、リーフレットを作成したり、ホームページで発信したりすることで、表現力を高めることができた。
- ・地域の方にインタビューしたり、地域の方をゲストティーチャーとして招いたりするなどして、地域と学校の連携を図った。



【第4学年】「平和について考えよう」「10才の記念集会」について考えよう」

【ねらい】

- ・原爆について知り、戦争の悲惨さから長崎・佐世保の平和について考える。
- ・「人権・平和」について学ぶ中で、「しあわせ、自由・平等、権利」について学び、周りの人への感謝の気持ちを持ちながら、自立を目指し、将来の夢に向かって努力する態度を育てる。



【活動の概要】

- ・ 6月に長崎の平和公園・爆心地公園・原爆資料館の見学、平和集会で全校に発表。
- ・「10歳の記念集会」では、一人ひとりが「しあわせ、自由・平等、権利について学んだことや、周りの人への感謝、将来の夢に向かって努力する考えを表現できた。
- ・よびかけや歌で成長や感謝の気持ちを表現した。

【成果と課題】

- ・ 平和案内人の方の貴重な話を聞いたり、「人権・平和」について学んだりする活動を通して、「しあわせ、自由・平等、権利」について学びを深めることができた。
- ・ 将来の夢に向かって努力する考えを表現することで、将来の夢に向かって努力する態度を高められた。

【第5学年】「食について考えよう」

【ねらい】

- ・ 旬の野菜について知り、土づくりや畝立て、ポットへの種まきや苗作りなど体験活動を行い、収穫した野菜を家庭科での味噌汁作りに使ったり、プレゼンテーションソフトを活用して発表会を行ったりして活動の達成感を味わわせ、食を愛する心情を育てる。



【活動の概要】

- ・ 畑に肥料を混ぜて耕し、畝を立てた。ポットに種を蒔いて苗を作り、畑に植えかえた。当番制で水やりや雑草取りをして、観察させながら育てた。また、できた野菜を収穫し、家庭科での味噌汁づくりで活用した。学習のまとめとしてプレゼンテーションソフトでまとめ、発表会を実施した。

【成果と課題】

- ・ 実際に種から野菜を育てるという体験活動を行ったことで、食べ物を育てる大変さを実感させることができた。また、食べ物を、より大切に食べようという意識や地産地消への関心も高まった。味噌汁作りや発表会などを行い、一定の深まりはあったが、より発展的な学習につなげていけるとよかった。

【第6学年】「お年寄りが生き生きと暮らせる社会に」

【ねらい】

- ・ お年寄りとのコミュニケーション力を身につけるとともに、相手を思いやって行動する態度を養う。

【活動の概要】

- ・ シニア体験セットによるお年寄りの生活を疑似体験したり、校区内にある特別養護老人ホーム「チューリップ」の生活相談員に、施設の概要や、そこで働く人の思い、お年寄りの生活の様子や接し方、認知症に対する知識についてお話いただいたりした。また、実際に「チューリップ」の訪問活動を、各学級2回計6回実施した。
- ・ 12月に認知症キャラバンの方を講師に招き、認知症サポーター養成講座を受講し、認知症患者との関わり方について学習した
- ・ ふれあい後、「お年寄りが生き生きと暮らせる社会にするために、自分たちができることはないだろうか」というテーマで、ポスターセッションを行った。



【成果と課題】

- ・ お年寄りとの交流を通して、相手の立場を思いやって行動できるコミュニケーション能力を高めることができた。
- ・ 認知症についての学習会を加えたことで、認知症に対する知識をつけることができた。

(2) 学力向上の取組

①子どもたちの実態把握

本校児童の学力課題に、「国語科の書く力」「算数科の思考力・表現力」の不足が挙げられていた。また、「学習意欲」の個人差が、学習の成果を大きく左右していた。そこで4月に2～6年生で学力調査を実施し、研究の方向性を定める資料として活用した。また、児童の学習意欲向上を検証するため、「生き生き黒髪っ子アンケート」を6月と12月に実施した。

②校内研修の充実

前述の児童の実態を踏まえ、今年度は昨年度までの校内研修テーマ「意欲をもち、生き生きと活動する黒髪っ子の育成をめざして」を継続し、児童の意欲を高める「集団づくり・授業づくり」のさらなる充実を図るとともに、平成32年度から本格実施される「外国語活動」「外国語科」の研究に取り組んだ。

ア：基礎研究

本年度は「児童の意欲向上」を目指す研究の1年次としてこれまでの研究構想を引き継ぎつつ、「授業づくり」においては、次年度より完全実施となる「外国語活動」「外国語科」を見据え、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かしながら、移行準備に取り組んだ。また、「集団づくり」においては、人権教育やソーシャルスキルトレーニングを活用することで、学級の指示的風土を高めるようにした。

イ：児童の意欲を高める授業づくりの実践

- ・ 外国語の学習では、導入において、英語のジングルや歌を取り入れたり、見通しが持てるように授業の流れや単元のゴール、本時のめあてを示したりしたことで、学習意欲の向上が見られた。
- ・ 集団づくりの授業展開の工夫として、ゲームを取り入れながら、誰でも楽しく活動できるようにしたことで、仲間意識を高められた。
- ・ 対話的な学びの形は（ペア、トリオ、小グループ、全体）、全学年で実施できて効果が見られたものは、「話す力・聞く力」レベル表の活用、ペア・グループ学習の充実である。



③成果と課題

- ・ 児童の意欲向上を検証するための「生き生き黒髪っ子アンケート」の結果、「自分の良いところをいくつか言える」「友達の良さを進んで伝えられた」「外国語の学習が好き」の項目が伸びていた。これは、集団づくりや外国語の授業づくりの成果であると考えられる。
- ・ 職員による自己分析の結果では、「考えの過程や根拠を書く場面の設定」「書く視点や条件を示す」「授業前後の変容を捉える」「話す力・聞く力レベル表を意識した指導」「知識技能の活用」等の意識が高まっていることが分かった。特に、「自己肯定感を高める工夫」は、後期は前期と比べて平均が1.7ポイントも増えており、教師の意識の高まりが児童の自己肯定感の伸びや良さを伝えられたという意欲向上に繋がっていると考えられる。
- ・ 「外国語活動」「外国語科」の移行期である今年度に、外国語ワークショップや3年生から6年生までの全体授業をもとにした研究ができたことで、本格実施へ向けた準備が進んだ。
- ・ 全国学力学習状況調査において、国語、算数、理科ともに全国および県と比べ伸びた。さらなる学力向上を目指し、具体的な取組をしていく必要がある。